

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2015-47243

(P2015-47243A)

(43) 公開日 平成27年3月16日(2015.3.16)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 6 1 G 7/05 (2006.01)	A 6 1 G 7/04	3 B 1 0 2
A 4 7 G 9/02 (2006.01)	A 4 7 G 9/02	P 4 C 0 4 0
A 6 1 G 7/10 (2006.01)	A 6 1 G 7/10	

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号	特願2013-179870 (P2013-179870)	(71) 出願人	592213707
(22) 出願日	平成25年8月30日 (2013. 8. 30)		日本エンゼル株式会社
			東京都千代田区神田佐久間町4丁目14番地
		(74) 代理人	110001612
			きさらぎ国際特許業務法人
		(72) 発明者	萱場 和夫
			東京都千代田区神田佐久間町4丁目14番地
			日本エンゼル株式会社内
		Fターム(参考)	3B102 BA00
			4C040 AA08 GG01 HH01

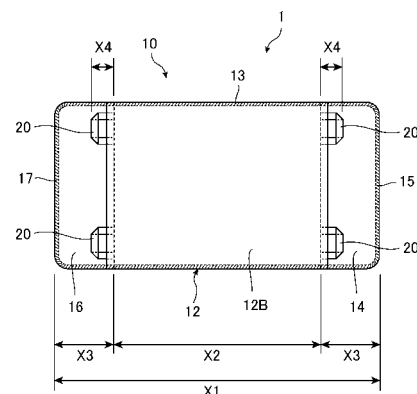
(54) 【発明の名称】 寝具用シート

(57) 【要約】

【課題】把持部材を有する寝具用シートであって、シートとして使用する際における引っ掛かり等に起因する事故や怪我を防止することが可能な寝具用シートを提供する。

【解決手段】使用者2が横臥する寝具4に使用される寝具用シート1であって、寝具4に敷設されるシート本体10と、シート本体10の寝具4と接する側の面に設けられた把持部材20とを備えている。把持部材20は、シート本体10の外縁よりも内側に取り付けられ、該シート本体10の外縁から幅方向に突出しないように設けられている。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

使用者が横臥する寝具に使用される寝具用シートであって、
前記寝具に敷設されるシート本体と、
前記シート本体の前記寝具と接する側の面に設けられた把持部材と
を備え、
前記把持部材は、前記シート本体の外縁よりも内側に取り付けられ、該シート本体の外
縁から幅方向に突出しないように設けられている
ことを特徴とする寝具用シート。

【請求項 2】

前記シート本体は、前記寝具上を幅方向に横断するように敷設される敷設部と、前記敷
設部の両側縁部にそれぞれ設けられ、前記寝具の裏面側に巻き込まれる巻き込み部とを有し
、
前記把持部材は、前記シート本体の幅方向に、前記敷設部の幅方向の長さ以上、かつ、
前記シート本体の幅方向の長さ未満の間隔をおいて、少なくとも一対設けられている
ことを特徴とする請求項 1 に記載の寝具用シート。

【請求項 3】

前記把持部材は、前記敷設部と各巻き込み部との境界部分にそれぞれ設けられている
ことを特徴とする請求項 2 に記載の寝具用シート。

【請求項 4】

前記巻き込み部は、前記敷設部よりも伸縮性を有している
ことを特徴とする請求項 3 に記載の寝具用シート。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、使用者が横臥する寝具に使用される寝具用シートに関するものである。

【背景技術】**【0002】**

従来、寝たきりの老人や病人等の被介護者に対して、褥瘡を予防するために、被介護者
と寝具との間にクッション等の体位変換具を挿入し、仰向け状態から体位を変化させるこ
とが行われている。また、被介護者をベッドや布団等の寝具から他の場所へ搬送する場
合には、寝具から被介護者を持ち上げて、担架等の搬送具へ移動させることが行われてい
る。しかしながら、被介護者を仰向け状態から横向き状態に変化させる作業や、搬送具へ
の移動は、非常に力が必要な作業であると共に、被介護者にとっても、体位変換時の身体
のねじれや、搬送具への移動時の身体の屈曲等により、苦痛を伴う作業であるという問題が
ある。

【0003】

このような問題を解決するための寝具用シートとして、従来、被介護者を仰向け状態か
ら横向き状態に変化させる作業を補助可能であると共に、被介護者を搬送する搬送具とし
て機能可能な寝具用シートが知られている（特許文献 1 及び 2）。

【0004】

特許文献 1 には、図 11 に示すように、長形状のシート 102 の両側縁部からそれぞ
れ取っ手 106 が突出するように、長形状のシート 102 の裏面に一対の取っ手付補強
シート 104 が縫合された多用途搬送シート 100 が開示されている。

【0005】

また、特許文献 2 には、図 12 に示すように、長形状のシート 112 の短辺側両端部
が全幅において二重に折り返されて縫合され、当該二重に折り返された領域 114 に把持
用穴 116 が形成されたキャリングシート 110 が開示されている。

【0006】

特許文献 1 に開示された多用途搬送シート 100 及び特許文献 2 に開示されたキャリン

10

20

30

40

50

グシート 110 は、通常時には、ベッドや布団等の寝具のシートとして使用することができる。一方、体位変換を行う際には、一方側の把持部（取っ手 106、把持用穴 116）のみを把持して、長方形のシート 102、112 の一方縁側のみを持ち上げることにより、被介護者を仰向け状態から横向き状態にスムーズに変化させることが可能である。また、被介護者の搬送を行う際には、両側縁部の把持部（取っ手 106、把持用穴 116）の双方を把持して、長方形のシート 102、112 の両側縁部を持ち上げることにより、シート自体を搬送具として用いることができる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0007】

10

【特許文献 1】特開 2006 - 198369 号公報

【特許文献 2】特開 2002 - 58705 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0008】

しかしながら、特許文献 1 の多用途搬送シート 100 は、寝具用シートとして使用の際に、ループ状の取っ手 106 が常に幅方向外側に突出しているため、通行人及び被介護者の身体や、寝具周辺の物等が取っ手に引っ掛かり易く、事故や怪我が発生するおそれがあるという問題がある。

【0009】

20

また、特許文献 2 のキャリングシート 110 は、寝具用シートとして使用の際に、把持用穴 116 が形成された領域 114 を寝具の下部に巻き込ませるものであるが、経時的に把持用穴 116 が形成された領域 114 が寝具の下部から抜け出るおそれがあり、この場合には把持用穴 116 が露出することとなるため、以前として、引っ掛かりに起因する事故や怪我が発生するおそれがあるという問題がある。

【0010】

そこで、本発明は、把持部材を有する寝具用シートであって、シートとして使用の際における引っ掛かり等に起因する事故や怪我を防止することが可能な寝具用シートを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

30

【0011】

上記の目的を達成するため、本発明に係る寝具用シートは、使用者が横臥する寝具に使用される寝具用シートであって、前記寝具に敷設されるシート本体と、前記シート本体の前記寝具と接する側の面に設けられた把持部材とを備え、前記把持部材は、前記シート本体の外縁よりも内側に取り付けられ、該シート本体の外縁から幅方向に突出しないように設けられていることを特徴とする。

【0012】

本発明に係る寝具用シートにおいて、前記シート本体は、前記寝具上を幅方向に横断するように敷設される敷設部と、前記敷設部の両側縁部にそれぞれ設けられ、前記寝具の裏面側に巻き込まれる巻込み部とを有し、前記把持部材は、前記シート本体の幅方向に、前記敷設部の幅方向の長さ以上、かつ、前記シート本体の幅方向の長さ未満の間隔において、少なくとも一対設けられていることが好ましい。

40

【0013】

また、本発明に係る寝具用シートにおいて、前記把持部材は、前記敷設部と各巻込み部との境界部分にそれぞれ設けられていることが好ましい。

【0014】

さらに、本発明に係る寝具用シートにおいて、前記巻込み部は、前記敷設部よりも伸縮性を有していることが好ましい。

【発明の効果】

【0015】

50

本発明によれば、把持部材を有する寝具用シートであって、シートとして使用する際に
おける引っ掛かり等に起因する事故や怪我を防止することが可能な寝具用シートを提供す
ることができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 6 】

【図 1】本発明の第 1 実施形態に係る寝具用シートの表面側の構成を示す概略構成図であ
る。

【図 2】第 1 実施形態に係る寝具用シートの裏面側の構成を示す概略構成図である。

【図 3】第 1 実施形態に係る寝具用シートを寝具に装着させた状態を示す概略斜視図であ
る。

10

【図 4】図 4 (a) は、第 1 実施形態に係る寝具用シートをシートとして用いた状態を示
す模式図であり、図 4 (b) は、第 1 実施形態に係る寝具用シートを体位変換の補助具と
して用いた状態を示す模式図であり、図 4 (c) は、被介護者と寝具との間に体位変換具
を挿入した状態を示す模式図である。

【図 5】図 5 (a) は、第 1 実施形態に係る寝具用シートをシートとして用いた状態を示
す模式図であり、図 5 (b) ~ 図 5 (c) は、第 1 実施形態に係る寝具用シートを搬送シ
ートとして用いた状態を示す模式図である。

【図 6】第 1 実施形態に係る寝具用シートの巻込み部が寝具の裏面側から抜け出した状態
を示す概略斜視図である。

【図 7】本発明の第 2 実施形態に係る寝具用シートの裏面側の構成を示す概略構成図であ
る。

20

【図 8】第 2 実施形態に係る寝具用シートをギャッジベッドに装着させた状態を示す概略
斜視図である。

【図 9】本発明の第 3 実施形態に係る寝具用シートの裏面側の構成を示す概略構成図であ
る。

【図 1 0】本発明の第 4 実施形態に係る寝具用シートの表面側の構成を示す概略構成図で
ある。

【図 1 1】従来の多用途搬送シートを示す概略構成図である。

【図 1 2】従来のキャリングシートを示す概略構成図である。

【発明を実施するための形態】

30

【 0 0 1 7 】

次に、本発明の第 1 実施形態に係る寝具用シートについて、図面に基づいて説明する。
第 1 実施形態に係る寝具用シート 1 は、図 1 ~ 図 3 に示すように、使用者（被介護者）が
横臥する寝具 4 に使用される寝具用のシートであって、寝具 4 に敷設されるシート本体 1
0 と、シート本体 1 0 の寝具 4 と接する側の面（裏面）に設けられた把持部材 2 0 とから
構成されている。なお、以下の説明において、縦方向とは、寝具 4（ベッド 6 及びマット
レス 8）の長手方向（図 1 及び図 3 中、Y 方向）を意味し、横方向とは、寝具 4（ベッド
6 及びマットレス 8）の幅方向（図 1 及び図 3 中、X 方向）を意味するものとする。

【 0 0 1 8 】

シート本体 1 0 は、図 1 に示すように、幅方向（横方向）を長手方向とする矩形状に形
成された敷設部 1 2 と、敷設部 1 2 の右側縁部に設けられた右側巻込み部 1 4 と、敷設部
1 2 の左側縁部に設けられた左側巻込み部 1 6 とから構成されている。なお、以下の説明
において、単に「巻込み部 1 4、1 6」という場合には、「右側巻込み部 1 4」及び「左
側巻込み部 1 6」の双方を指すものとする。

40

【 0 0 1 9 】

敷設部 1 2 は、図 1 ~ 図 3 に示すように、寝具用シート 1 のうち、寝具 4（マットレス
8）上に敷設される部位である。この敷設部 1 2 は、寝具 4（マットレス 8）の縦方向の
長さよりも短い縦方向の長さ、かつ、寝具 4（マットレス 8）の横方向の長さよりもやや
長い横方向の長さを有する矩形状に形成されている。具体的には、例えば寝具 4（マット
レス 8）がシングルベッドのサイズ（幅 9 7 c m × 長さ 1 9 5 c m）である場合には、敷

50

設部 12 のサイズは、例えば幅 105 cm × 長さ 90 cm ~ 110 cm とすることができる。

【0020】

敷設部 12 は、図 1 及び図 2 に示すように、例えば綿やポリエステル等の素材からなる生地、例えばデニム生地やパイル生地等の肌触りが優れ、吸汗性に優れた生地からなる表生地 12A と、耐熱ポリウレタンラミネート等の防水性を有する素材からなる防水シート 12B とが積層されたシート状に形成されている。この敷設部 12 は、被介護者 2 の荷重に耐え得る強度を有している。表生地 12A と防水シート 12B は、粘着剤や熱溶着等により接着されており、また、ほつれや剥離を防止するために、図 1 及び図 2 に示すように、オーバーロックミシン等によりその周縁にオーバーロック縫い（縁かがり縫い）13 等の端処理が施されている。

10

【0021】

巻込み部 14、16 は、図 1 ~ 図 3 に示すように、それぞれ、寝具用シート 1 のうち、寝具 4 の裏面側（ベッド 6 とマットレス 8 との間）に巻き込まれる部位である。これら巻込み部 14、16 は、それぞれ、縦方向を長手方向とする矩形状に形成されており、敷設部 12 の縦方向の長さと同程度の縦方向の長さ、かつ、寝具 4 の裏面側（ベッド 6 とマットレス 8 との間）に巻き込むことが可能な横方向の長さを有している。具体的には、例えば寝具 4（マットレス 8）がシングルベッドのサイズ（幅 97 cm × 長さ 195 cm）である場合には、巻込み部 14、16 のサイズは、それぞれ、例えば幅 28.5 cm ~ 32.5 cm × 長さ 90 cm ~ 110 cm とすることができる。

20

【0022】

右側巻込み部 14 は、図 1 及び図 2 に示すように、例えばオーバーロックミシン等によりその周縁にオーバーロック縫い（縁かがり縫い）15 等の端処理が施されていると共に、その左端縁部全域が敷設部 12 の右端縁部に縫い付けられている。また、左側巻込み部 16 は、例えばオーバーロックミシン等によりその周縁にオーバーロック縫い（縁かがり縫い）17 等の端処理が施されていると共に、その右端縁部全域が敷設部 12 の左端縁部に縫い付けられている。巻込み部 14、16 は、それぞれ、例えば綿やポリエステル等の素材からなる生地から形成されている。

【0023】

把持部材 20 は、被介護者 2 の荷重に耐え得る厚手の帯状部材から形成されており、一端部及び他端部がシート本体 10 の裏面に縫合されることにより、ループ状に形成されている。把持部材 20 は、敷設部 12 と右側巻込み部 14 との境界部分、並びに敷設部 12 と左側巻込み部 16 との境界部分において、それぞれ縦方向（敷設部 12 の側縁部に沿った方向）に所定の間隔、例えば介護者（搬送者）の肩幅程度の間隔をおいて 2 つずつ設けられている。すなわち、把持部材 20 は、シート本体 10 の幅方向に、敷設部 12 の幅方向の長さ（図 2 中の長さ X 2）と同程度の間隔をおいて、二対設けられている。

30

【0024】

各把持部材 20 は、シート本体 10 の中心から側縁に向かう方向に頭頂部が位置するように設けられており、介護者や搬送者の手を挿入可能な大きさに形成されている。把持部材 20 の幅方向の長さ、すなわち、シート本体 10 との縫合部からループ状部位の頭頂部までの長さ（図 2 中の長さ X 4）は、巻込み部 14、16 の幅方向の長さ（図 2 中の長さ X 3）よりも短い長さを有している。すなわち、把持部材 20 は、シート本体 10 の外縁よりも内側において、シート本体 10 の外縁から幅方向に突出しないように設けられている。把持部材 20 とシート本体 10 との縫合は、被介護者 2 の荷重に耐え得るように施されている。

40

【0025】

次に、第 1 実施形態に係る寝具用シート 1 の使用方法について、説明する。第 1 実施形態に係る寝具用シート 1 は、図 3 に示すように、通常時においては、寝具 4（本実施形態ではベッド 6 上に載置されるマットレス 8）に局所的に取り付けられ、寝具用のシートとして使用される。具体的には、寝具用シート 1 は、シート本体 10 の敷設部 12 がマット

50

レス 8 上を横方向（幅方向）に横断するように敷設されると共に、巻込み部 14、16 が寝具 4 の裏面側に、本実施形態ではベッド 6 の上面とマットレス 8 の下面との間に、それぞれ側方から挿入されることによって、寝具 4 に装着される。

【0026】

また、第 1 実施形態に係る寝具用シート 1 は、被介護者 2 の体位変換を行う際に、被介護者 2 を仰向け状態から横向き状態へと体位を変化させる際の補助具としても用いることが可能である。具体的には、図 4（a）に示す寝具用のシートとして使用されている状態から、図 4（b）に示すように、一方側の巻込み部（本実施形態では左側巻込み部 16）を寝具 4 の裏面側から取り出し、把持部材 20 を把持したまま上方へ持ち上げる。これにより、被介護者 2 を体軸（中心軸）を中心として回転させることができるため、被介護者 2 の身体を過度にねじったり屈曲させたりすることなく、被介護者 2 を仰向け状態から横向き状態にスムーズに変化させることが可能である。そして、図 4（c）に示すように、被介護者 2 と寝具 4 との間にクッション等の体位変換具 9 を挿入し、取り出した左側巻込み部 16 を再度寝具 4 の裏面側に挿入することにより、容易に体位変換を行うことができる。

10

【0027】

さらに、第 1 実施形態に係る寝具用シート 1 は、被介護者 2 を寝具 4 から他の場所へ搬送する際に、被介護者を搬送する搬送具としても用いることが可能である。具体的には、図 5（a）に示す寝具用のシートとして使用されている状態から、図 5（b）～図 5（c）に示すように、左右両方の巻込み部 14、16 を寝具 4 の裏面側から取り出し、右側巻込み部 14 側に設けられた 2 つの把持部材 20 を一の搬送者が両手で把持し、左側巻込み部 16 側に設けられた 2 つの把持部材 20 を他の搬送者が両手で把持したまま上方へ持ち上げる。これにより、シート自体を搬送具として機能させて、被介護者 2 の身体を過度にねじったり屈曲させたりすることなく、被介護者 2 を寝具 4 から他の場所へ搬送することができる。

20

【0028】

以上のように、第 1 実施形態に係る寝具用シート 1 によれば、シート本体 10 の左右両側部の内側に把持部材 20 がそれぞれ設けられていることにより、寝具用のシートとしての用途以外に、被介護者 2 を仰向け状態から横向き状態へと体位を変化させる際の補助具としても用いることができると共に、被介護者 2 を寝具 4 から他の場所へ搬送する搬送具としても用いることができる。

30

【0029】

また、第 1 実施形態に係る寝具用シート 1 は、シートとして使用する際における引っ掛かり等に起因する事故や怪我を防止することができる。すなわち、第 1 実施形態に係る寝具用シート 1 は、寝具 4 に敷設されるシート本体 10 と、シート本体 10 の寝具 4 と接する側の面に設けられた把持部材 20 とを備え、把持部材 20 が、シート本体 10 の外縁よりも内側において、シート本体 10 の外縁から幅方向に突出しないように設けられている。これにより、図 6 に示すように、寝具用シートとして使用する際に、経時的に巻込み部 14、16 が寝具 4 の裏面側から抜け出した場合であっても、把持部材 20 が各巻込み部 14、16 に覆われており、把持部材 20 がシート本体 10 から露出することがないため、通行人及び被介護者の身体や、寝具周辺の物等が把持部材 20 に引っ掛かるおそれがない。

40

【0030】

さらに、第 1 実施形態に係る寝具用シート 1 は、把持部材 20 が、シート本体 10 の幅方向に、敷設部 12 の幅方向の長さ（図 2 中の長さ X 2）以上、かつ、シート本体 10 の幅方向の長さ（図 2 中の長さ X 1）未満の間隔をおいて設けられている。これにより、第 1 実施形態に係る寝具用シート 1 は、例えば次のような利点を有する。第 1 に、第 1 実施形態に係る寝具用シート 1 は、図 6 に示すように、寝具 4 上に把持部材 20 が位置することがなく、寝具 4 上に把持部材 20 に起因する凹凸が生じないため、床ずれの原因となる段差が少ないという利点を有する。第 2 に、第 1 実施形態に係る寝具用シート 1 は、特許

50

文献 1 に開示された多用途搬送シート 100 及び特許文献 2 に開示されたキャリングシート 110 と比べ、把持部材 20 の位置と、被介護者 2 の位置とが近いため、より小さい力で被介護者 2 の体位変換や搬送を行うことができるという利点を有する。第 3 に、把持部材 20 が設けられた位置からシート本体 10 の側縁までの部位の長さ、本実施形態においては各巻込み部 14、16 の長さ（図 2 中の長さ X3）が、把持部材 20 が設けられた位置から被介護者 2 の位置までの長さよりも長い場合には、把持部材 20 が設けられた位置からシート本体 10 の側縁までの部位を、搬送時における被介護者 2 の目隠しとして機能させることができるという利点も生じ得る。

【0031】

またさらに、第 1 実施形態に係る寝具用シート 1 は、把持部材 20 が敷設部 12 と各巻込み部 14、16 との境界部分にそれぞれ設けられている。これにより、例えば、敷設部 12 に被介護者 2 の荷重に耐え得る生地を使用し、各巻込み部 14、16 に伸縮性に優れた生地を使用する等、敷設部 12 と各巻込み部 14、16 とを異なる性質を有する生地で形成することが可能となる。

【0032】

また、このように、敷設部 12 に被介護者 2 の荷重に耐え得る生地を使用し、各巻込み部 14、16 に伸縮性に優れた生地を使用する場合には、上述の体位変換補助具や搬送具として用いることができるだけでなく、例えばギャッジベッド等の起伏動作を伴う寝具にも対応できるという利点を有する。すなわち、従来、寝たきりの老人や病人等（被介護者）が快適に過ごしやすく、また介護を容易にするための医療用及び介護用のベッドとして、被介護者の上体を起こすことが可能なギャッジベッドが用いられているが、従来の一般的なシートや、防水シートが積層された失禁用シートでは、伸縮性が乏しいため、ギャッジベッドの起伏動作に伴ってギャッジベッドとマットレスとの間から徐々に引っ張り出され、多くのしわを発生させてしまうという問題がある。また、従来のシートであっても、素材によっては多少の伸縮性を有するものがあるが、このようなシートでは、全体が伸縮性を有していることから、搬送具として用いると破損する恐れがあり、また、被介護者の寝返り等によってしわが発生しやすいという問題がある。これに対し、第 1 実施形態に係る寝具用シート 1 によれば、上述のとおり、把持部材 20 が敷設部 12 と各巻込み部 14、16 との境界部分に設けられているため、各巻込み部 14、16 に敷設部 12 よりも伸縮性を有する生地を用いることができる。これにより、ギャッジベッドに用いた場合であっても、ギャッジベッドの起伏動作に追従して各巻込み部 14、16 が伸縮するため、ギャッジベッドとマットレスとの間から引っ張り出されにくく、しわが発生しにくいという利点がある。また、把持部材 20 は、強度的に弱い巻込み部 14、16 ではなく、敷設部 12 と各巻込み部 14、16 との境界部分に設けられるため、搬送具として用いても破損しにくいという利点がある。このような伸縮性を有する生地としては、例えば綿やポリエステル等の素材からなるニット編み生地等を挙げることができるが、これに限定されるものではない。また、この伸縮性を有する生地は、幅方向（敷設部 12 の側縁部に直交する方向。図 1 中の X 方向。）と縦方向（敷設部 12 の側縁部に沿う方向。図 1 中の Y 方向。）の伸縮が同程度のものや、幅方向と縦方向に異方伸縮性を有するものを用いることが可能であるが、特に、幅方向よりも縦方向への伸縮が大きくなるような異方伸縮性を有するものを用いることが好ましい。実験の結果、幅方向と縦方向の伸縮が同程度の生地や、縦方向よりも幅方向への伸縮が大きくなるような異方伸縮性を有する生地よりも、幅方向よりも縦方向への伸縮が大きくなるような異方伸縮性を有する生地を巻込み部に用いた方が、優れたしわ抑制効果を発揮できることが明らかとなった。

【0033】

次に、本発明の第 2 実施形態に係る寝具用シートについて、図面に基づいて説明する。以下、第 2 実施形態に係る寝具用シート 1' において、巻込み部以外の構成は、第 1 実施形態に係る寝具用シート 1 と共通するため、同一符号を用いることで、その説明を省略する。

【0034】

第2実施形態に係る寝具用シート1'のシート本体10'は、第1実施形態に係る寝具用シート1のシート本体10と異なり、巻込み部が敷設部の両側縁部に沿ってそれぞれ一対設けられている。

【0035】

すなわち、敷設部12の右側縁部に設けられた右側巻込み部14'は、縦方向（敷設部12の右側縁部に沿った方向）に二分割されており、上側巻込み部14aと、下側巻込み部14bとから構成されている。これら右側巻込み部14'の上側巻込み部14a及び下側巻込み部14bは、それぞれ、例えばオーバーロックミシン等によりその周縁にオーバーロック縫い（縁かがり縫い）15'等の端処理が施されていると共に、その左端縁部全域が敷設部12の右端縁部に縫い付けられている。

10

【0036】

また同様に、敷設部12の左側縁部に設けられた左側巻込み部16'は、縦方向（敷設部12の左側縁部に沿った方向）に二分割されており、上側巻込み部16aと、下側巻込み部16bとから構成されている。これら左側巻込み部16'の上側巻込み部16a及び下側巻込み部16bは、それぞれ、例えばオーバーロックミシン等によりその周縁にオーバーロック縫い（縁かがり縫い）17'等の端処理が施されていると共に、その右端縁部全域が敷設部12の左端縁部に縫い付けられている。これら上側巻込み部14a、16aと下側巻込み部14b、16bとは、それぞれ同形同大に形成されている。

【0037】

把持部材20は、右側巻込み部14'の上側巻込み部14a及び下側巻込み部14b並びに左側巻込み部16'の上側巻込み部16a及び下側巻込み部16bの裏面側にそれぞれ1つずつ位置するように、シート本体10'の裏面側かつ敷設部12の両側縁部に計4つ（左右2つずつ）設けられている。また、把持部材20は、各把持部材20が各巻込み部14a、14b、15a、15bにそれぞれ被覆され、シート本体10'の外縁から幅方向に突出しないように構成されている。

20

【0038】

このように構成された寝具用シート1'は、例えば図8に示すように、ギャッジベッド6及びマットレス8が屈曲する部位（屈曲線L）を境にして、縦方向の上方側（上半身側）に各巻込み部14'、16'の上側巻込み部14a、16aが巻き込まれ、縦方向の下方側（下半身側）に各巻込み部14'、16'の下側巻込み部14b、16bが巻き込まれるように、寝具4に取り付けられて使用される。

30

【0039】

以上のような第2実施形態に係る寝具用シート1'によれば、第1実施形態に係る寝具用シート1の利点に加え、巻込み部14'、16'が、ギャッジベッド6及びマットレス8が屈曲する部位（屈曲線L）を境にして上下に分割されているため、ギャッジベッド6の起伏動作による影響を最小限にとどめることができ、これにより、しわの発生を格段に減少させることができるという利点がある。

【0040】

次に、本発明の第3実施形態に係る寝具用シートについて、図面に基づいて説明する。以下、第3実施形態に係る寝具用シート1''において、把持部材以外の構成は、第1実施形態に係る寝具用シート1と共通するため、同一符号を用いることで、その説明を省略する。

40

【0041】

第3実施形態に係る寝具用シート1''の把持部材20'は、第1実施形態に係る寝具用シート1の把持部材20と異なり、図9に示すように、敷設部12と右側巻込み部14との境界部分、並びに敷設部12と左側巻込み部16との境界部分にそれぞれ1つずつ設けられている。すなわち、把持部材20'は、シート本体10の幅方向に、敷設部12の幅方向の長さと同程度の間隔をおいて、一対設けられている。

【0042】

把持部材20'は、被介護者2の荷重に耐え得る厚手の帯状部材から形成されており、

50

敷設部 12 の側縁部に沿うように、一端部がシート本体 10 の裏面の上端部近傍に、他端部がシート本体 10 の裏面の下端部近傍にそれぞれ縫合されることにより、ループ状に形成されている。各把持部材 20' は、シート本体 10 の中心から側縁に向かう方向に頭頂部が位置するように設けられており、把持部材 20' の幅方向の長さ、すなわち、シート本体 10 との縫合部からループ状部位の頭頂部までの長さが、巻込み部 14、16 の幅方向の長さよりも短い長さとなるように構成されている。すなわち、把持部材 20' は、第 1 実施形態に係る寝具用シート 1 の把持部材 20 と同様に、シート本体 10 の外縁よりも内側において、シート本体 10 の外縁から幅方向に突出しないように設けられている。把持部材 20' とシート本体 10 との縫合は、被介護者 2 の荷重に耐え得るように施されている。

10

【0043】

次に、本発明の第 4 実施形態に係る寝具用シート 1' について、図面に基づいて説明する。以下、第 4 実施形態に係る寝具用シート 1' において、敷設部以外の構成は、第 1 実施形態に係る寝具用シート 1 と共通するため、同一符号を用いることで、その説明を省略する。

【0044】

第 4 実施形態に係る寝具用シート 1' の敷設部 12' は、図 10 に示すように、第 1 実施形態に係る寝具用シート 1 と同様に、肌触りが優れた素材からなる表生地と、防水性を有する素材からなる防水シートとが粘着剤や熱溶着等により接着されたシート状に形成されている。一方、敷設部 12' は、第 1 実施形態に係る寝具用シート 1 と異なり、敷設部 12' の周縁にオーバーロック縫い（縁かがり縫い）処理が施されておらず、表生地と防水シートとが、敷設部 12' の周縁部よりも内側において縫合されている。この敷設部 12' の周縁部よりも内側に設けられた縫合線 13' は、例えば片面飾り縫い（二重環下飾り縫い、カバーステッチ）等の縫合処理により作出されるものであり、表生地側（表面側）に 2 本（又は 3 本）の直線状の縫い目が露出し、防水シート側（裏面側）にジグザグ状（ロック状）の縫い目が露出するように形成されている。

20

【0045】

第 4 実施形態に係る寝具用シート 1' によれば、第 1 実施形態に係る寝具用シート 1 の利点に加え、被介護者 2 と接触する部位である敷設部 12' の周縁にオーバーロック縫い（縁かがり縫い）処理が施されていないため、第 1 ～ 第 3 実施形態に係る寝具用シートと比較して、床ずれの原因となる段差が少ないという利点がある。特に、第 4 実施形態に係る寝具用シート 1' は、被介護者 2 との接触面である表生地側に直線状の縫い目しか露出されていないため、被介護者 2 との接触面をほぼフラットにすることができる。さらに、第 4 実施形態に係る寝具用シート 1' は、防水シート側に露出されたジグザグ状（ロック状）の縫い目が滑り止めとして機能するため、シートがずれにくく、しわが発生しにくいという利点がある。

30

【0046】

本発明に係る寝具用シートは、上述した実施形態に限定されるものではなく、本発明の技術思想を逸脱しない範囲内において種々の改変を行なうことができる。すなわち、本発明に係る寝具用シートは、使用者が横臥する寝具に使用される寝具用シートであって、寝具に敷設されるシート本体と、シート本体の寝具と接する側の面に設けられた把持部材とを備え、把持部材が、シート本体の外縁よりも内側において、該シート本体の外縁から幅方向に突出しないように設けられているものであれば、いかなる構成を備えるものであっても良い。

40

【0047】

例えば、上述した実施形態では、寝具用シートとして、幅方向を長手方向とする矩形状に形成され、寝具に局部的に取り付けて使用されるものを例示して説明したが、これに限定されず、縦方向を長手方向とする矩形状や、正方形状等の種々の形状を採用することができ、また、布団やマットレス等を覆うボックスタイプのシートであっても良い。

【0048】

50

第1～第4実施形態に係る寝具用シートでは、敷設部、巻込み部及び把持部材が、左右対称かつ上下対称の構成を備えるものとして図示及び説明したが、これに限定されず、敷設部、巻込み部及び把持部材は、左右対称に形成されなくても良いし、上下対称に形成されなくても良い。また、第2実施形態に係る寝具用シート1'において、上側巻込み部14a、16aと下側巻込み部14b、16bとは、それぞれ同形同大に形成されたとしたが、これに限定されず、それぞれ異なる形状及び大きさに形成されても良い。

【0049】

第1～第4実施形態に係る寝具用シートにおいて、シート本体は、敷設部の両側縁部に右側巻込み部と左側巻込み部とを1つ又は2つずつ縫合させることにより形成されたとしたが、これに限定されず、シート本体を一枚の生地から形成しても良いし、シート本体の両側縁部にそれぞれ3つ以上の巻込み部を取り付けるものであっても良い。特に、取付対象となるギャッジベッドが、例えば膝部分でも屈曲可能に構成されているような複数の屈曲部位を有するものである場合には、右側巻込み部及び左側巻込み部は、ギャッジベッドの各屈曲部位と対応する位置においてそれぞれ分断されるように構成されることが好ましい。このように、右側巻込み部及び左側巻込み部がギャッジベッドの各屈曲部位と対応する位置において分断されるように構成されることにより、より一層しわの発生を抑制することができる。

【0050】

また、第1～第4実施形態に係る寝具用シートにおいて、シート本体は、オーバーロック縫い（縁かがり縫い）等の端処理又は片面飾り縫い（二重環下飾り縫い、カバーステッチ）等の縫合処理が施されているとしたが、これに限定されず、これら以外の端処理又は縫合処理が施されても良く、また、これら端縫合又は縫合処理が施されていない構成としても良い。

【0051】

第1～第4実施形態に係る寝具用シートにおいて、敷設部は、肌触りが優れた素材からなる表生地と、防水性を有する素材からなる防水シートとが積層されたシート状に形成されているとしたが、これに限定されず、表生地又は防水シートのみからなる構成や、他の生地を積層させた構成等、いかなる構成を備えるものであっても良い。また、敷設部は、被介護者の荷重に耐え得る強度を有しているものであれば、伸縮性を有する素材や生地から形成されても良い。

【0052】

第1～第4実施形態に係る寝具用シートにおいて、把持部材は、敷設部と各巻込み部との境界部分にそれぞれ設けられるとしたが、これに限定されず、例えば、シート本体の幅方向に、敷設部の幅方向の長さ（図2中の長さX2）以上、かつ、シート本体の幅方向の長さ（図2中の長さX1）未満の間隔において、設けられるとしても良い。このような構成であっても、寝具上に把持部材に起因する凹凸が生じないという利点を得ることができる。

【0053】

また、第1～第4実施形態に係る寝具用シートにおいて、把持部材は、敷設部と各巻込み部との境界部分にそれぞれ1つ又は2つずつ（すなわち、一対又は二対）設けられるとしたが、これに限定されず、3つ以上設けられても良い。また、把持部材は、シート本体の外縁から外方向に突出しなければ、シート本体の左右両側部の内側の他に、シート本体の上部や下部の内側にも設けることができる。

【0054】

さらに、第1～第4実施形態に係る寝具用シートにおいて、把持部材は、厚手の帯状部材から形成されたとしたが、これに限定されず、被介護者の荷重に耐えることができる強度を有し、介護者や搬送者が把持可能なものであれば、いかなるものであっても良く、例えば紐部材や棒状部材等を用いることもできる。

【符号の説明】

【0055】

10

20

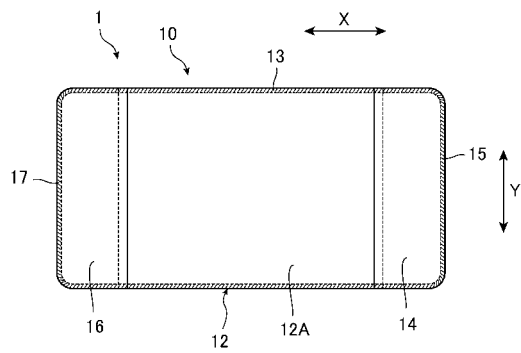
30

40

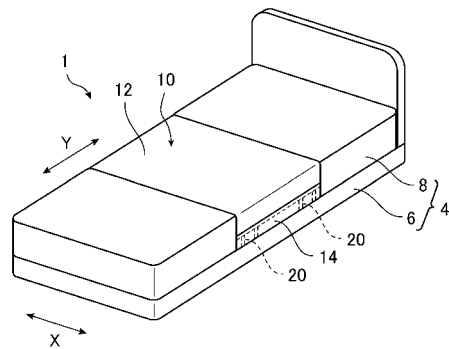
50

1, 1', 1'', 1''' 寝具用シート、2 被介護者、4 寝具、10, 10' シーツ本体、12, 12' 敷設部、14, 14' 右側巻込み部（巻込み部）、16, 16' 左側巻込み部（巻込み部）、20, 20' 把持部材

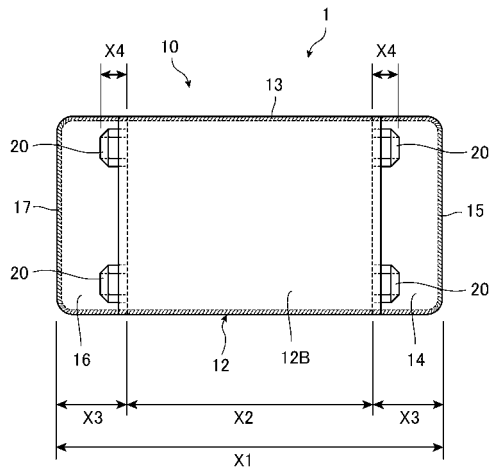
【図 1】



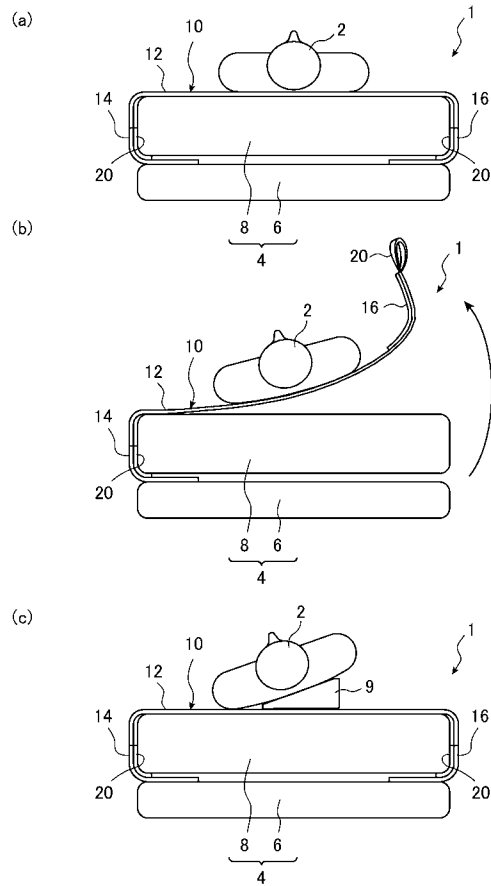
【図 3】



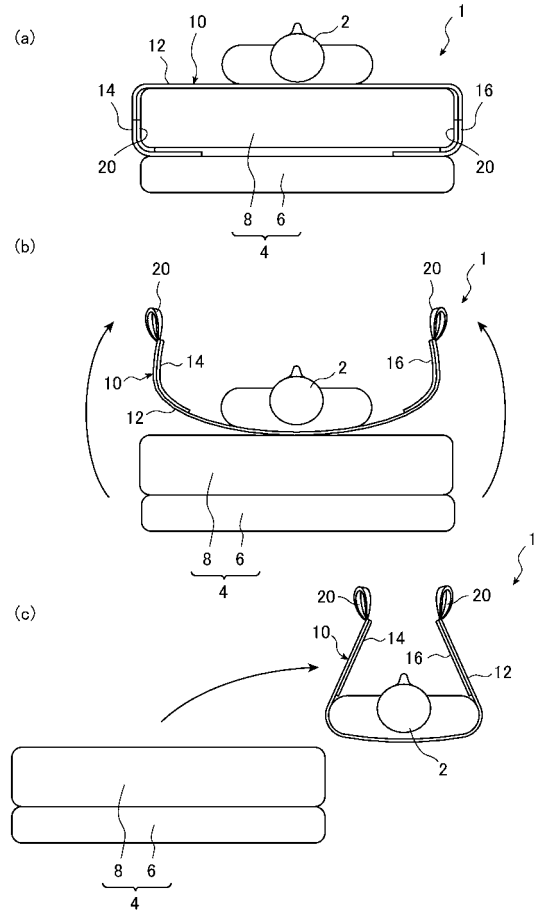
【図 2】



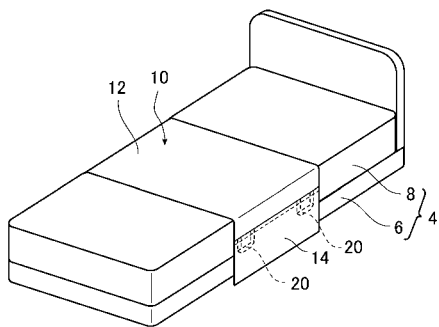
【図 4】



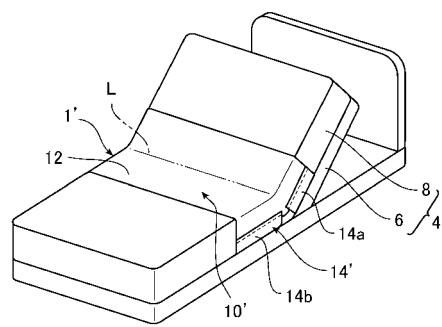
【図 5】



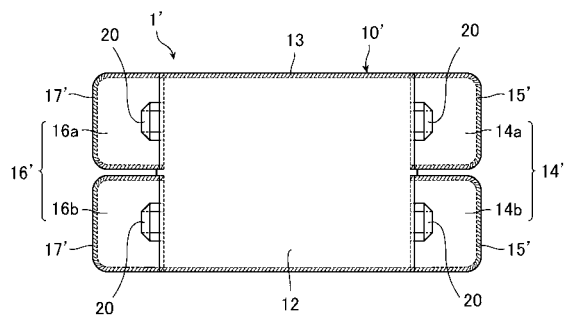
【図 6】



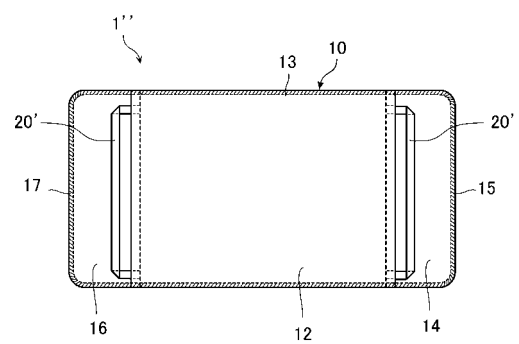
【図 8】



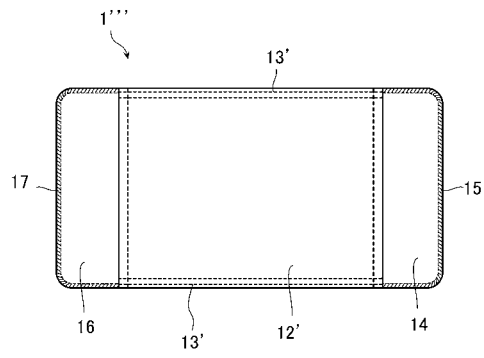
【図 7】



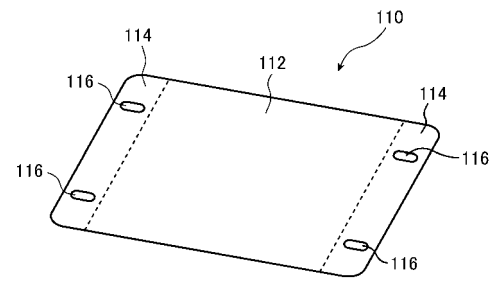
【図 9】



【図 10】



【図 12】



【図 11】

